古民家の野外博物館
日本民家園だより

昭和61年度第3号
《通号第6号》
発行　62・1・1
川崎市立日本民家園
川崎市多摩区枡形 7-1-1
電話 (044) 922-2180~1

間口の広い軽快な造りの旧佐々木家住宅

- 旧佐々木家住宅
- 国指定重要文化財
- 片カブト造り茅葺き
- 平面積　226.02 ㎡
  (68.4 坪)
- 旧所在地　長野県南佐久郡八千穂村上畑
- 昭和40年7月　佐々木嘉幸氏より川崎市に寄贈
- 昭和40年8月　解体開始
- 昭和42年9月　移築復原工事完成
- 昭和42年12月　重要文化財に指定

旧佐々木家住宅

◆南佐久の民家

この家は，佐々木嘉幸氏の住宅で，享保16年（１７３１年）に建てられました。

佐々木家は，長野県の東寄り，群馬，山梨両県に近い所に佐久平という盆地があり，そこを流れる千曲川のほとりの上畑という村で代々回り持ちの名主を務めていました。

冬の寒さは厳しい所ですが，降雪は少ないので，柱や梁など主要な建築材が細く，このため家全体の姿がまことに軽快に見えます。

住いの中心は，「ちゃのま」，「おかって」という「いろり」のある二つの部屋ですが，奥には立派な床の間のある二間続きの客座敷をもち，座敷便所と風呂場，広い濡れ縁があります。

◆みどころ

- 片カブト造り……（寄棟（よせむね）造りの妻側の屋根の下方を切り取った形で，武具のカブトのように見える。右手の妻だけカブト状）
- 幅の広い濡れ縁
- 風呂場
- 馬小屋の上の中二階
- 茶の間とかつて
- 畳敷きの座敷と奥座敷

《園の動き》

◆第20回民具づくり教室＜10/5，10/12＞
=布ぞうり作り=　最近ワラが手に入りにくくなりましたので木綿布を素材として作りました。

◆第21回民家に学ぼう会＜10/19,10/26＞
＜秋季講座＞　今回は，関東地方の民家の特色を学び，学習講座と園内見学解説で展開しました。

◆第１回民家園ボランティア講座＜11/7,14,21,28＞
園の初めての試み，継続学習（４日間）で自主グループ育成の一環として，基礎編古民家解説・近世の庶民生活史　・他施設見学を実施。

◆第21回民具づくり教室＜12/7,14＞
=しめ縄づくり=　はじめての方も，すてきなしめ縄と玉飾りを作って，自宅に飾りました。

＜手づくりのしめ縄を我家に飾ってみよう＞

＜布ぞうりはこうして手も足も使って作るんだ＞

◆第15回親と子の手づくり教室＜12/21＞
=おもちつき=　親子でたのしくおもちつき臼とキネでペッタン，ペッタン　おもちで正月用のお供えを作りました。

◀年中行事展示など▶

◆刈りあげ（稲の刈り上げ祝い）＜10月中＞
農家でお米の収穫の祭り行事として毎年行う

◆八日僧（ヨウカゾ）＜12月中＞
目カゴを高くかかげて，魔除けとする行事

◆正月準備　＜12月＞
新年を迎えるための準備として，餅（もち）つき・ススはらいを行う。行事は北村家にて

3月までの行事案内

◆親と子の手づくり教室　＜1/11＞
=マユダンゴ作り=
◇申　込　12月21日（日）から電話で，先着20名まで
◇内　容　小正月のマユダンゴを作る
◇教材費　300円（当日納めてください）

◆民具づくり教室　=紙すき=　＜3/1＞
◇申　込　2月15（日）から往復ハガキで先着30名
◇内　容　和紙（ハガキ６枚位・色染めもします）づくり《くわしくは次頁に紹介します》
◇材料費　受講料無料，材料費1000円（当日納入）

◆親と子の手づくり教室　＜3/15＞
=草ダンゴ作り=
◇申　込　2月22日（日）から往復ハガキで先着20名
◇内　容　草ダンゴを作る
◇材料費　300円（当日納めてください）

◀ 年　中　行　事 ▶

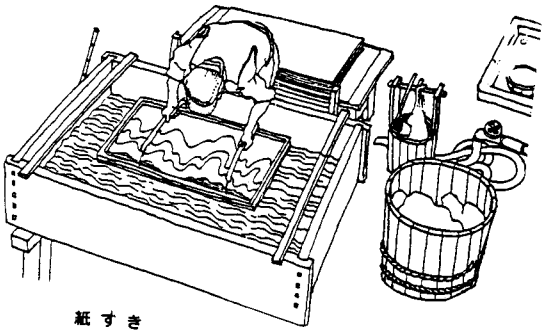
◆神棚かざり・小正月行事　＜1月中＞
◆節　分・八日僧（12月も行う）＜2月中＞
◆文化財映画会　3月8日　10：30と13：30
◆ひな祭り・蚕影山祭り　＜3月中＞
（養蚕の神様のおまつりです）

◆紙 す き

埼玉県の秩父山系の麓，小川盆地の槻川で手すき和紙が生産されております。この小川和紙の起源は古く８～９世紀ころと伝えられ，江戸時代文化・文政期に栄えました。なかでも，「細川紙」という楮紙は，独特の技術と丈夫で素朴な紙質と相まって，有名となり，国の重要無形文化財の指定を受けて現在に至っております。

当園では，はじめての試みとしてこの「紙すき」を事業に取り入れてみることにしました。昔ながらの製造工程ですすめるわけですが，時間の都合で一部は現地で行ってきますが，紙すき・染色などはご自分でやっていただく予定です。ご期待ください。

伝統的手工芸品「紙すき」の技術に直接ふれて，古民家の中で，あなた自身の手で作る和紙は，きっと名作となり，良い思い出となることでしょう。



紙すき

今年１年の成果 会員作品展示会（3/22～4/5）民具製作技術保存会 行事から

民技会では，民家園内の旧作田家の軒下や前庭を会場に，ワラ細工や竹細工をおこなっています。また，はた織りは旧佐々木家内で。いずれも日曜日に会員相互の手作り技術の修得・向上のために実習をおこなっております。一般の見学者からも好評で，若い頃を想い出し，あるいは遠いふるさとを偲んでいろいろな話にひととき，花を咲かせて帰る方も少くありません。

民家園まつりの一環として，５月18日，25日の２日間と，夏休みの８月24日にはフリーの見学者を対象に自由参加行事をひらき，毎回好評を得ております。会員と見学者が，手作りという作業を媒介として，ふれあいをもつ楽しいひとときでもあります。

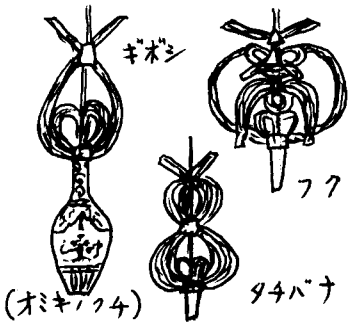
今年度も余すところわずかとなりましたが，今年も恒例の「会員作品展示会」が，３月22日より４月５日まで，作田家内でひらかれます。この一年，丹精こめて作りあげた民具を一堂に展示し，見学の皆さんにも見て頂き，会員の汗と努力の成果を発表しようという催しです。

今年は，どんな民具が出品されるか楽しみです。

ワラで作ったハケゴやエジッコ。これは山仕事に行く時などに，弁当や道具などを入れてゆき，帰りには収穫物を運ぶ背負い用具です。

（ハケゴ）

また，雨の時に着るミノ（ワラのレインコート）も今ではあまり見られなくなって仕舞った民具です。



年が改まり元旦の朝，新年を迎える神棚にお神酒を供えますが，そのお神酒徳利の口にさすオミキノクチは青竹を細く裂いて組合せた美しい芸術品(?)です。

（ミノ）

今年の展示会に出品を予想されるもののいくつかについてご紹介いたしました。是非ご覧ください

年中行事〔1月の行事〕 秦野の小正月

（旧北村家住宅年中行事解説）

小正月とは，1月14日・15日を中心とした行事を指します。昔は，新月から新月までを1カ月とする古い暦法による年の始めを祝う行事が，中国から新しい暦法に変った現在でも，そのまま民俗行事として残されています。

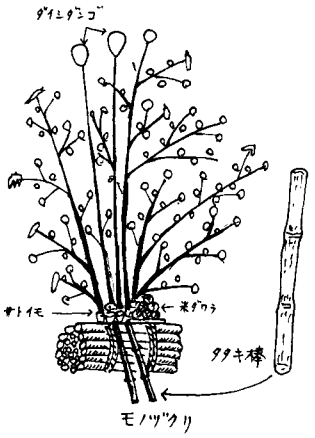
ところで小正月の行事は全国的にさまざまな事柄が行なわれています。①木の枝にいろいろな形のダンゴを突差したものを飾ったり，柿などの実のなる木に「成るか成らぬか，成らねば伐るぞ」と言いながら叩く，ナリキゼメ（成木責）などと呼ばれる作物の豊作を願う「予祝行事」②粥の中に筒や管を入れてその中に入る米粥の具合によってその年の吉凶を占う行事　③ドンドン焼，サエノカミなどの火を燃やして病気や災厄をのぞこうという行事　④秋田県男鹿半島のナマハゲなどに扮装した青年が家々を訪れる小正月のトシノカミ行事などが見られます。

ところで，民家園内の旧北村家で行なわれている小正月の行事は，もと秦野にあったことからその地方のものにならって製作展示してます。北村家では，小正月に作るダンゴを「ジュウヨッカダンゴ」とか「ノウカモノヅクリ」といって，ナラの木にマユ・ニンジン・大根・ナンキン豆・タバコの葉などを型どったものをさし，またサトイモや俵を型どったものを薪の上に据え，更に竹にダイシ団子という大きな団子をさしておきます。

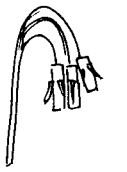
これは，14日の夜に取り除かれドンドン焼の火で焼いて食べるそうです。

秦野市今泉などでは，現在でも少年の管理によってドンドン焼（サイト払い）の名で呼ばれる行事が行われています。本来は子どもたちの行事であったが，このとき大人も仲間入りして団子を食べると風邪を引かないとか，若返るとか言われています。この地方では道祖神の祭りと結合して子供たちは，小屋の中に道祖神（さいの神）を入れ，寝泊まりはしないものの，道祖神にお参りにくる人々に道祖神のお札を子どもたちが配ったり，小屋の中で食事をすることは，東北地方の田畑の害鳥を追う小正月の行事や秋田地方のカマクラなどと共通している要素を含んでるように思われます。

このようにさまざまな行事が含まれる小正月行事は，別名女の月ともいい女の人の休日でもあるとされ，大正月は，厳粛な礼儀・儀式であるのに対して小正月はあらかじめ一年の災厄払いをしておく行事が多いようです。



「ケズリカケ」ニワトコの木を上下から削って，中央で花のようにするもので，神のヨリシロと言われています。



「アワボ・ヒエボ」ニワトコを割竹に差して穀物の穂に見立てたもので，モノヅクリと共に豊作を祈願する行事です。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年中は本園の運営に対し絶大なご支援・ご協力をいただき本当にありがとうございました。

本年は開園20周年を迎え，更に皆様に親しまれる“いえとくらし”の博物館として発展するよう私共全職員頑張っていく所存です。

今後とも皆様方の，一層のご指導・ご協力をよろしくお願いします。